

令和8年度

第55回「子どもの本を学ぶ講座」へのお誘い

静岡子どもの本を読む会・静岡市立中央図書館 共催

子どもの本の豊かな世界をより楽しんでいただくために、今年も魅力的な講座を企画しました。
ぜひご参加ください。

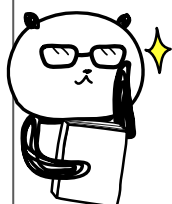
- ★ 日 時 火曜日の午前10時～12時（全6回）
- ★ 会 場 静岡市立中央図書館 2階 ホール（葵区大岩本町29番1号 城北公園隣）
- ★ 定 員 100人（先着順）
- ★ 会 費 5,000円（静岡子どもの本を読む会・講座会員会費として）
- ★ 託 児 有り（1歳6ヵ月～未就学児・5人 先着順・申込締切9月10日）
子ども1人につき 1,000円（第1回～第5回分合計）※第6回は同伴可

受付日 9月1日（火）午前10時～（先着順）

受付方法 以下の①②いずれかの方法でお申込みください。

- ① 9月1日（午前10時～午後3時）に、
受付会場（静岡市立中央図書館 2階ホール）で直接
＊ 会費等を添えて、受付会場でお申し込みください。
＊ 1人が複数人分の申し込みをすることも可能です。

- ② 電子申請（右の2次元コード・URL から）
<https://logoform.jp/form/79j2/1625766>
＊ 会費等は第1回目の講座時に頂戴します。当日はお早めにご来館ください。



★ 講座日程 ……講座の日程や内容は変更となる場合がありますがご了承ください……

開催日		講座内容	講師（敬称略）
10月	6日（火）	ピッピ、カッレ、ミオを訳して—— リンドグレーン作品の新訳に挑む	菱木 晃子《翻訳家・作家》
10月	20日（火）	絵本『一郎くんの写真』ができる まで	木原 育子《新聞記者》
11月	10日（火）	赤羽末吉の人生と絵本	赤羽 茂乃《赤羽末吉研究者》
12月	1日（火）	絵本を作るときにずっと考えてい ること	小寺 卓矢《写真家、絵本作家、ドキュメンタ リー映画撮影者》
1月	19日（火）	図書館員から見た子どもの読書	吉住 幸子《牧之原市教育委員・袋井市立図書 館図書館協議会委員・元御前崎市立図書館長》
2月	9日（火）	講座生懇談会、ストーリーテリング（予定）	

☆ お 願 い 駐車場は利用時間に制限があるため、講座に参加される方はご利用いただけません。
自家用車での来館はご遠慮いただき、公共交通機関のご利用をお願いします。

☆ 問 い 合 せ 静岡市立中央図書館 TEL (054) 247-6711

「静岡子どもの本を読む会」は、昭和47年に市内の家庭文庫を開いていた仲間によって発足し、
子どもの本・文化・図書館に関わる活動をしています。当講座は今年度で55回目を迎えます。

第1回：菱木 晃子 氏

【翻訳家・作家】

1960年、東京都生まれ。慶應義塾大学卒業後、スウェーデンのウプサラでスウェーデン語を学ぶ。1988年、『サーカスなんてやめた』（岩崎書店）で翻訳家デビュー。以後、現在に至るまで、スウェーデンの児童書を中心に翻訳を数多く手がける。また、最近は創作にも意欲を出している。

訳書に『ニルスのふしぎな旅』『月へミルクをとりにいったねこ』（以上、福音館書店）、「長くつ下のピッピ」シリーズ、「名探偵カッレ」シリーズ、『ミオよ、わたしのミオ』（以上、岩波書店）、『ロサリンドの庭』（あすなろ書房）、『けがをした日』（ブロンズ新社）など、著書に『はじめての北欧神話』、『行く手、はるかなれど——グスタフ・ヴァーサ物語』（以上、徳間書店）など。

2009年、スウェーデン王国より北極星勲章授与。神奈川県在住。



講師紹介

第2回：木原 育子 氏

【新聞記者】

愛知県出身、名古屋大学大学院卒。2007年に中日新聞社入社。石川、滋賀、静岡県浜松市勤務の後、東京社会部、特別報道部を担当。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を得て福祉の問題を中心に取材している。中日新聞で、戦時下のある家族を描いた連載記事「さまよう日章旗」（2014年8月15日～23日）を担当し、その後、絵本『一郎くんの写真』（福音館書店）として出版した。社会福祉士として東京新聞で連載したコラムをまとめた『社会福祉士と新聞記者の現場から一伝える つながる 創る』（高文研）などの著書がある。現在は社会部デスク。

第3回：赤羽 茂乃 氏

【赤羽末吉研究者】

1952年、東京生まれ。1979年、赤羽末吉の三男研三氏と結婚。11年間、義父末吉の近くで暮らし、頻繁に行き来しながら、その日常に触れる。1990年、末吉他界後、研三氏とともに、遺された約七千点の原画・スケッチ・資料等の整理に携わりながら、赤羽末吉が辿った軌跡とその作品について調査研究を続ける第一人者。その生涯と作品の魅力を伝えるために各地で精力的に講演活動を行なっている。

2020年に『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかけの虹』（日本児童文学学会特別賞および日本絵本研究賞特別賞を受賞）を福音館書店より出版。横浜市在住。

第4回：小寺 卓矢 氏

【写真家、絵本作家、ドキュメンタリー映画撮影者】

1971年、神奈川県生まれ。森に息づくいのちの輝きをテーマに、主に北海道の森林風景の撮影を行い、写真展、雑誌掲載、写真絵本などで作品を発表。そのかたわら、講演、写真絵本づくりワークショップなどの体験講座、音楽と映像のコラボ公演など多彩な活動を行っている。著書に『森のいのち』『だって春だもん』『いっしょだよ』『いろいろはっぱ』『さくららら』（以上、アリス館）、『わたしたちの「撮る教室」』（学事出版）、『この森をつくるのは』（帯広の森50周年記念事業実行委員会）など。2026年6月に絵本『いしとぼく』（きくちちきと共著／アリス館）を上梓した。北海道教育庁特別外部講師。北海道子どもの本連絡会員。北海道十勝在住。

第5回：吉住 幸子 氏 【牧之原市教育委員・袋井市立図書館図書館協議会委員・元御前崎市立図書館長】

1953年、牧之原市（旧榛原町）生まれ。静岡県で育ち、調布市立図書館などでおよそ20年司書として勤務。1992年浜岡町立図書館準備室の設置を機に静岡県へ戻り、浜岡町立図書館長、御前崎市立図書館長を歴任。2013年の定年退職後は図書館での経験を活かし、牧之原市教育委員等として、地域の子どもの読書活動を支援している。また、常葉大学教育学部の非常勤講師を2023年3月まで、20年間務める。

著書に『図書館森時代』（日本地域社会研究所）、『図書館による町村ルネサンス Lプラン21』（日本図書館協会）がある。